

令和5年度 新潟県立新発田病院附属看護専門学校 学校評価(授業評価の結果)

令和6年5月

I 令和5年度の自己点検・評価の重点取組

令和4年度の学校評価結果を踏まえ、令和5年度は次の2点を重点項目として取り組んだ。

- 1 充実した臨地実習への取組
 - 1)3年生の領域実習評価アンケートの実施(全ての領域)
 - 2)各クールでの実習指導者との情報共有
 - 3)改善策の実施
- 2 教員の専門能力の向上
 - 1)教員全員が講義評価アンケートを2回実施

II 重点取り組みの結果

1 充実した臨地実習への取組の結果・評価

【実習評価アンケートの結果】 N=188 回収率76.6%

アンケートは教員のかかわり13項目、臨地実習・スタッフのかかわり9項目と自由記載の内容で、5段階尺度(5点満点)で実施した。全体の項目平均得点が4.43であり、また全ての項目で4.0以上と高かった。特に臨地指導者・スタッフについての項目が高かった。しかし、教員と看護師の指導の一貫性についての項目で得点が低く、教員と指導者が対象の看護についてどのようにとらえているか、双方情報交換し、ケアについて大きな相違がないよう調整が必要である。

2 教員の専門能力の向上

【講義評価アンケート結果】 11科目 N=423 回収率72.1%

講義内容や進め方について13項目のアンケートを実施した。5段階尺度(5点満点)で、平均4.75であった。令和5年度は各教員2科目のアンケート実施を目標としたが、全員の実施に至らなかった。講義の内容のわかりやすさと資料、教材のわかりやすさの項目がやや低く、資料作成時に講義内容の理解を促す資料となっているか確認していく必要がある。

III 学校関係者評価委員からの意見

- ・教員、実習指導者と学生の指導について共通理解しながら対応していくことが重要である。
- ・学生は指導された中身より、その時の状況だけで受け止めてしまう。学生が指導内容を理解しやすい環境を整え指導する必要がある。
- ・課題を臨床と学校側で共有していく必要性を感じる。

IV 令和6年度の取り組み

実習評価アンケート結果を踏まえ、学びやすい学習・実習環境に向けて、具体的な実習指導方法を検討・実施し、臨床側と必要な情報共有をしていく必要がある。教員の教育力向上に向け、各教員が計画的にアンケートを実施し、自己の授業を振り返ることを継続していく。